

国立病院機構熊本医療センター

No.181



くまびょう NEWS

NHO KUMAMOTO MEDICAL CENTER KUMABYO NEWS

発行所
国立病院機構熊本医療センター
〒860-0008
熊本市中央区二の丸1番5号
TEL (096)353-6501(代)
FAX (096)325-2519

国立病院機構熊本医療センター 医学生のための臨床研修説明会が開催されました



6月16日土曜日の午後に、当院での臨床研修説明会が開催されました。当日は豪雨で宮崎からの参加予定の学生さんが高速道路の閉鎖で参加を途中で断念ということも有りましたが、天候の悪いなか各大学から32名の医学生に参加していただきました。院長をはじめ各担当者から病院の紹介、国立病院機構の若手を育てる取り組み、当院の研修プログラムの説明があり、研修2年次の斎藤先生から研修生活についての紹介がありました。病院見学の後で意見交換会を行いました。

参加していただいた各科の代表から、それぞれの診療内容や新しい治療の紹介があり、例年の説明会以上に和気あいあいと盛り上がりました。来年度からは救急医を目指す特別プログラム2名を募集しますが、学生の関心も高いようでした。土曜日の午後という説明会に各科の先生ご協力いただきまして大変有り難うございました。来年の新しい研修医の獲得のために今後ともよろしくお願いいたします。

(教育研修部長 清川 哲志)



院内見学、意見交換会の様子

基本理念

最新の知識・医療技術と礼節をもって、
良質で安全な医療を目指します。

運営方針

1. 良質で安全な医療の提供
2. 政策医療の推進
3. 医療連携と救急医療の推進
4. 教育・研修・臨床研究の推進
5. 国際医療協力の推進
6. 健全経営



「心身一体の医療」

くまもと悠心病院
院長 宮内 大介



くまもと悠心病院は熊本市小山町にある精神科病院です。昭和57年1月に現在地で東家病院として開院し、今年の1月で30周年を迎えました。近くにはKKwingがあり、時間があるときには職員数名でロアッソ熊本の応援に行ったりしています。精神科病院ですので、統合失調症や気分障害（躁うつ病、うつ病等）の患者様が主ですが、最近は認知症の患者様がずいぶん増え、私も認知症の専門外来をやっています。

認知症の初診時には普段の様子を聞くほかに、認知機能検査や脳の画像検査、血液検査などを行いま

す。見逃してはいけないのが普段内服している薬です。高齢者は毎日たくさん薬を飲んでいる方が多く、その中に認知機能に影響する恐れのある薬剤が含まれていることがあります。代表的なものは抗ヒスタミン作用のある薬剤（アレルギーの薬や胃薬）、抗コリン作用のある薬剤（頻尿の薬、向精神薬）などです。これらを可能であれば中止し、他の系統のものに変更していただくだけで、問題行動が改善することもしばしばあります。

身体状態がよくないとせん妄を呈したり、精神状態も悪化することも多く、こういった患者様の診療には熊本医療センターとの連携がとても助かっています。精神状態がよくないからという理由で、身体的な治療を受けられないということは大きな問題です。熊本医療センターでは、認知症や精神疾患がある患者さんが全員、精神科の病棟で治療を受けているわけではなく、問題行動が多少あっても軽ければ、一般の内科や外科の病棟で治療を受けられ、やはり精神科病棟でなければ難しいという患者さんは精神科病棟へうつられるそうです。一般の病棟でも精神疾患のある患者様にある程度は対応できるという看護力は素晴らしいと思います。精神科のある総合病院と、一般病院と精神科病院の連携がとても大切であり、今後どのように連携していくかが課題です。

熊本の精神科においては欠かすことのできない病院です。救命救急部のみならず、各科の先生方、精神科の渡邊先生、山下先生が体調を崩さないよう願うばかりです。

診療情報提供書兼紹介状についてのお詫びとお知らせ

このたび九州厚生局より、「診療情報提供書は原本を紹介先へ受診の際に患者様に持参頂き、複写用紙を紹介元に保管して頂くように。」とのご指摘を頂きました。現在、当院からお配りしている診療情報提供書兼紹介状は、1枚目（原本）を紹介元に控えて頂き、2枚目（複写用紙）を患者様が受診の際に持参して頂くようご案内しております。

つきましては、早急に訂正した診療情報提供書兼紹介状及び、画像検査予約ファックス送信票を準備して郵送させて頂きますが、訂正した冊子がお手元に届きますまで、ご迷惑をおかけ致しますが1枚目（①送信用FAX用紙及び紹介元控）を患者様に持参頂き、2枚目（②患者様持参用）を紹介元に保管頂くようお願い致します。（尚、算定上問題はございません。）

略儀ではございますが、取り急ぎ書面にてお詫び申し上げます。どうか今後とも変わらぬご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

経営企画室長 織田 政継

施設紹介

国際医療協力室・特殊疾病研究室



国際医療協力室スタッフ

国立病院機構熊本医療センター（旧国立熊本病院）は、昭和60年から国際医療協力を病院機構の重要な柱として掲げ、その基幹病院として活動してきました。昭和60年4月蟻田功先生（前WHO世界天然痘根絶対策部長）が第5代国立熊本病院院長に就任され、翌年4月には厚生省の国立病院、療養所再編成計画に基づき、国際医療協力基幹施設としての機能付与の認可を厚生省より受けました。そして宮崎久義先生が第6代院長に就任した平成4年10月に国際医療協力を研究主題とする臨床研究部（特殊疾病研究室を含む5つの研究室を有す）が、平成22年4月に国際医療協力室が設置されました。

国際医療協力室では、特に医療分野において世界的な舞台で活躍できるような人物を育てあげ、それをサポートできるようなネットワークを構築するお手伝いを続けています。その3本の柱が、①厚生労働省所管

JICA（独立行政法人国際協力機構）集団研修、②アフリカ向け第三国研修技術協力の実施に係る在外技術研修講師業務、専門家としてのエジプト・アラブ共和国派遣、③国立病院機構熊本医療センターとタイ国コンケン病院との国際協力、姉妹協定締結です。現在当院では、ウイルス肝炎セミナー：疫学、予防及び治療（杉コースリーダー）、安全な輸血医療（中米地域）、次の10年に向けてのAIDSの予防及び対策（武本コースリーダー）の3コースが毎年開催されています。

特殊疾病研究室では、主に成人T細胞白血病・リンパ腫（ATL）など感染症・腫瘍研究、高齢者医療対策、そして国際医療協力を大きな柱として、今後日本が迎える高齢化社会での医療改革やヒトレトロウイルス感染症対策、そして医療のグローバル化への対応を模索しています。

（特殊疾病研究室長 武本 重毅）



平成23年度第1回「次の10年に向けてのAIDSの予防及び対策」研修



平成23年度第1回「安全な輸血医療（中米地域）」研修



平成23年度 タイ国コンケン病院スタッフ研修

2012 診療科紹介 (50)

小児科



部長
高木 一孝
小児血液疾患・感染症
小児科一般
日本小児科学会専門医



医長
森永 信吾
小児血液疾患（血液専門医）
骨髄移植・免疫疾患
小児科一般
日本小児科学会専門医
日本血液学会専門医

診療内容と特色

小児疾患全般にわたって診療を行なっています。小児科の特徴として感染症が多いのは他の施設と同様ですが、当小児科の特徴として小児の血液疾患の診療と食物アレルギーの診断を重点的に行っています。血液疾患は白血病やリンパ腫などの悪性腫瘍、好中球減少症、再生不良性貧血、鉄欠乏性貧血、溶血性貧血、特発性血小板減少性紫斑病、血友病などが含まれ、これらの疾患に対して化学療法、免疫抑制療法、造血幹細胞移植（非血縁ドナー移植も含む）、輸血療法などの治療を行っています。一方食物アレルギーの診断は、入院により厳重な管理のもとで食物負荷試験を行い、除去食の必要性を判定し食事指導を行っています。なお長期の入院を必要とする学童児については、訪問学級の先生（慶徳小学校、藤園中学校）により病棟で毎日授業が開かれています。また当院は日本小児科悪化医専門医制度研修医施設として研修医を受入れています。

診療実績

平成23年度の入院は入院総数466名でした。内訳は以下の通りです。

呼吸器疾患 102名（気管支炎・肺炎・RSウイルス細気管支炎、喘息様気管支炎など）

神経疾患 33名（熱性痙攣・てんかん・髄膜炎・硬膜下血腫など）

消化器疾患 41名（感染性胃腸炎<ノロウイルス・ロタウイルス・アデノウイルス感染>・急性虫垂炎・



医師
持永 将恵
小児科一般
小児救急



医師
日高 優子
小児科一般

肝障害・潰瘍性大腸炎など）

その他の感染 22名（EBウイルス感染症・ヘルペス口内炎・アデノウイルス感染症・猫ひっかき病・頸部リンパ節炎・急性中耳炎など）

血液疾患 79名（急性白血病・再生不良性貧血・特発性血小板減少症、紫斑病など）

事故 11名（交通事故や転落による頭部打撲<軽傷で経過観察入院のみ>、溺水事故）

アレルギー 159名（気管支喘息・食物アレルギー・アトピー性皮膚炎）

その他 19名（川崎病・免疫不全症・糖尿病・新生児・尿路感染症・急性糸球体腎炎など）

研究実績

小児白血病・リンパ腫の全国的な治療研究TCCSG（東京小児がん研究グループ）、JPLSG（日本小児白血病研究グループ）の参加施設として症例の登録・治療を行い治療成績の向上に努めています。また小児再生不良性貧血治療研究に登録し抗胸腺細胞抗体(ATG)、シクロスポリン(CSA)による免疫抑制療法、造血幹細胞移植を行っています。

ご案内

患者様のご紹介は医師へ直接お電話頂くか、患者様へ紹介状を持たせて受診して頂いても結構です。ただし、アレルギー外来は完全予約制ですので、前もって電話での予約をお願いします。時間外・休日は小児科宛の紹介状を持参し救急外来を受診して頂くと、当番の小児科医が診察致し必要に応じて入院治療を行います。

小児科勉強会（火曜会）

開業医の先生方との合同勉強会を月に一回(毎月第4火曜日8月は休み)に行っています。紹介頂いた入院患者さんの症例呈示と文献紹介(抄読会)です。会員制ではありませんので、自由にご参加下さいますようお願い致します。

最近のトピックス

「涙よ、さよなら……」



耳鼻咽喉科医長

上村 尚樹

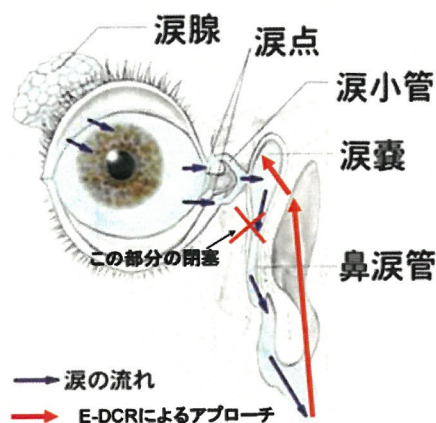
耳鼻咽喉科 上村です。少し哀愁のあるタイトルですが、今回は鼻涙管閉塞症に対して当科で行っている治療についてご紹介します。

鼻涙管閉塞症の主な症状は流涙、または眼脂ですが、これまでは眼科医、あるいは我々耳鼻科医が内眼角より切開し、靭帯、血管を切断しながら涙嚢を露出させ、骨を削ってこれを鼻腔へ開放させるという鼻外法で行う涙嚢鼻腔吻合術（DCR）が主でした。これは再狭窄の可能性や内眼角のしびれが持続する上、何ととっても顔面に傷がつくという大きなデメリットがあります。しかし私がこちらに赴任してからはこれらの疾患に対しては内視鏡下に鼻内より行っております。

あらゆる外科系診療科において内視鏡手術が主流になってきておりますが、我が耳鼻咽喉科領域でも同様の傾向で、鼻科手術、とくに慢性副鼻腔炎（蓄膿症）に対する手術はまさにその際たるものであります。その応用として近年鼻涙管閉塞症に対する手術であるDCRを内視鏡下に行う（E-DCR）施設が多くなってきています。

涙腺で作られた涙は涙小管から涙嚢を經由して鼻涙管を通して鼻内へ排泄されます。鼻涙管閉塞症で

はこの通路が狭くなるために涙が止まらないといった症状が現れます。このような場合、涙嚢を鼻内に開放して涙の抜け道を作るのがDCRです（図）。先述のようにこの手術には眼の内側の皮膚を切開して行う鼻外法もありますが、我々は内視鏡下に行っています。これは、鼻内より内視鏡下に涙嚢周囲の薄い骨を一部削って、上下涙点より挿入し鼻腔へ通した細いチューブ（N-S tube）を挿入、留置しておく方法で、片側1時間程度の手術、2～3日の短期入院で施行できます。我々耳鼻咽喉科医は内視鏡下の手術には非常に長けており、鼻外法での最大のデメリットであった顔面皮膚への操作はしないため、美容的にも優れているといえます。また鼻外法では皮膚切開や内眼角の操作に伴う出血に悩まされることもしばしばですが、E-DCRでは出血で操作が妨げられることはほとんどと言っていいくらいなく、スムーズにこなすことができます。また、N-S tubeは1～2ヶ月留置しておきます。我々はこのような手術を全身麻酔下に眼科スタッフと合同で行っています。両側同時にも可能なこともメリットのひとつです。もし鼻涙管閉塞症の患者さんがおられましたら当科、あるいは当院眼科までご紹介ください。



(図) 涙の流れと内視鏡によるアプローチ (E-DCR)

いま、国立病院機構
熊本医療センターで
何が研究されているか

シリーズ66回

透析中のアムホテリシンB脂質製剤投与における薬物動態の研究

腎臓内科 梶原 健吾



【背景】

透析患者は免疫異常が認められ、感染症を発症しやすく、加えてアクセスに関連した感染症も合併しやすくなります。このため、透析患者の真菌感染もよく経験しますが、透析患者が真菌感染した場合、抗真菌薬の投与において腎機能による制限を受けることが多くなります。

脂質化アムホテリシンB製剤はアムホテリシンB製剤を脂質化することにより、毒性が少なく透析患者においても減量せず使用できますが、その詳細については不明な点が多い薬剤です。我々はhigh flux membraneによる透析を受けているアスペルギルス感染症の透析患者に対し、脂質化アムホテリシンB製剤を投与し、その血中濃度を調べました。とくに現在の透析で主力になっているhigh flux membraneにおける報告は未だにありません。本研究については院内の倫理委員会の承諾を得て施行しました。

【方法】

72歳アスペルギルス症と診断された男性。

透析中投与ではダイアライザーAPS18MD (polysulfone, Asahi Kasei Kuraray Medical, Tokyo, Japan) 前後、通常投与では末梢における血中濃度を3日ずつ測定し、それぞれ5時間かけて4.6 mg/kgを投与しました。(図1)

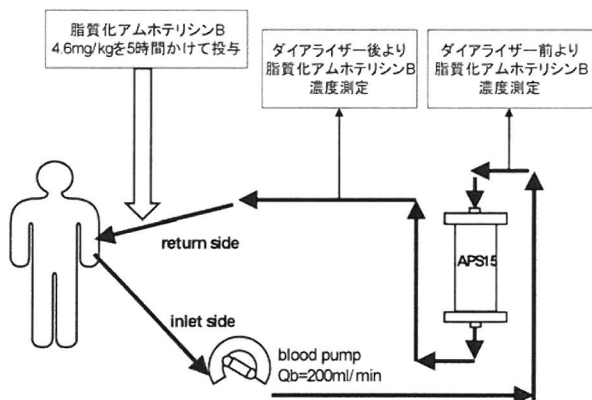
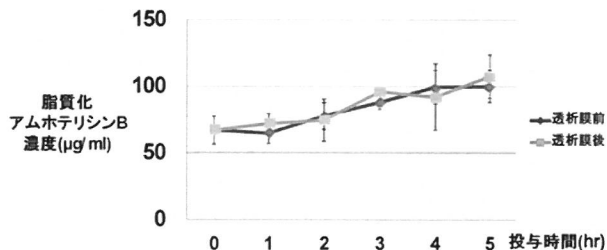


図1、脂質化アムホテリシンB製剤の透析中投与

【結果】

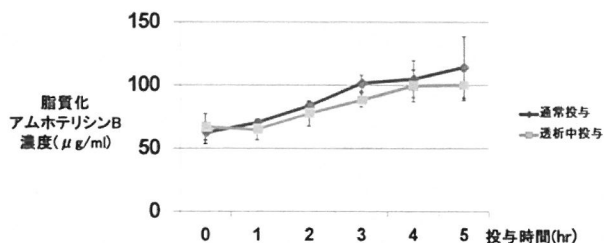
透析中投与においては、透析膜前後での血中濃度差に有意差はなく(図2)、透析中投与と通常投与においても血中濃度差は認めませんでした。(図3)

図2、透析中投与における脂質化アムホテリシンBの血中濃度



投与時間(hr)	0	1	2	3	4	5
透析膜前 濃度(µg/ml)	67±10.5	64.9±8.1	77.6±10	88.1±5.5	99.4±12.6	100.1±12
透析膜後 濃度(µg/ml)	67±10.5	71.9±7.6	74.5±15.8	95.9±0.3	92±25	107.5±16.2
p-value		0.459	0.85	0.137	0.544	0.562

図3、透析中投与、通常投与における脂質化アムホテリシンBの血中濃度



透析時間(hr)	0	1	2	3	4	5
通常投与 濃度(µg/ml)	62.3±8.6	70.1±2.4	83.6±3.1	101.4±6.5	104.9±14.5	114.2±24.2
透析中投与 濃度(µg/ml)	67±10.5	64.9±8.1	77.6±10	88.1±5.5	99.4±12.6	100.1±12
p-value		0.579	0.34	0.382	0.053	0.647

【結論】

high flux membraneを使用しているも、脂質化アムホテリシンB製剤は透析に関係なく投与でき、用量の調節を必要としない可能性が示唆されました。透析患者は四肢に透析用のアクセスが存在し、長い治療のために表在血管が荒廃しています。このため透析中にアクセスから薬物を投与できることは血管確保の苦痛から解放されることにつながります。また、透析の間に投与終了することから、治療に要する時間が短縮され、点滴に長時間縛られることが少なくなります。すなわち、治療中のQuality Of Lifeの改善に役立つものと考えられます。今後症例を追加して、多症例での傾向を解析する予定です。

【謝辞】

血中濃度測定について多大なご協力を賜った昭和大学医学部臨床感染症学講座の大林寛子先生、吉田耕一郎先生に深く感謝申し上げます。

「二の丸モーニングセミナー」を開催しています

本年度から研修医1年次向けの「研修医セミナー」を発展させ、「二の丸モーニングセミナー」と名称を変更して院内・院外の教育システムの一つとして拡充しました。記念すべき第1回は4月12日に河野院長の「研修医に期待するもの」として行われ、以後も毎週行われています。このセミナーは研修医1年・2年のみならず、院内外を問わず、興味ある医師、コメディカルなど広く一般に開放されています。開催曜日は毎週木曜日、時間は朝7時30分から8時15分までの45分間（質疑を含めた時間）となっていますので、少し早起きして是非ご参加ください。場所は研修センターホールですから、ゆったりと興味のある話を聞くことがで



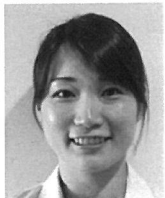
きます。セミナー内容は、医療安全などの総論的なものから臨床に即した系統的・疾患的なものまで、充実したものとなっています。7月以降のセミナー予定に関しては別表のとおりです。病院のホームページにも随時最新のセミナー予定についてご案内していきます。今後のセミナー内容について御要望がありましたら、どしどし御連絡ください。更に充実したセミナーにするために院外の講師をお呼びする等（最先端の研究の御講演など）、積極的に反映していきたいと思ひます。重要なセミナーとして発展して行きますように、御協力ならびに御参加をお願い致します。

（糖尿病・内分泌内科部長 豊永 哲至）

7月の内容

- 【7月5日】 田北神経内科医長
意識障害の考え方～危ない意識障害を見逃がさないために～
- 【7月12日】 富田腎臓内科部長
輸液の実際～基本はこれだけでOK～
- 【7月19日】 鶴田内科（臨床検査科）医長
輸血の実際～ちょっと役立つ輸血と血液の基礎～
- 【7月26日】 芳賀臨床研究部長
国際学会でのプレゼンの仕方～これであなたも国際人デビュー～

新任職員紹介



皮膚科

く どう えり な
工 藤 恵理奈

H24年6月1日より、皮膚科外来で勤務しております工藤恵理奈と申します。

H15年3月広島大学医学部医学科を卒業後、熊本大

学皮膚科に入局し、熊本病院のほか熊本市市民病院、水俣市立総合医療センター、NTT西日本九州病院などで勤務にあたって参りました。

体調を崩したため1年ほど休職しておりましたが、今回、10時から14時までの外来診療をさせて頂けることとなりました。

皮膚科医になり10年目ですが、1～3年目のDr.のようなフレッシュな目で皮膚病変をとらえることを心がけ、真摯に外来業務に取り組みたいと考えております。どうぞ宜しくお願い申し上げます。



放射線科

い どう かな こ
伊 藤 加奈子

平成24年7月から放射線科として勤務させていただくことになりました伊藤加奈子と申します。

平成10年に佐賀医科大学を卒業後、熊本大学放射線科医局に入局しまして、大学、荒尾市民病院にてそれ

ぞれ一年の研修後、熊本再春荘病院、熊本中央病院、熊本赤十字病院に勤務してまいりました。当院は全診療科があり、がん治療の地域拠点病院、救急病院として多数の患者を受けいれているとのことで、様々な症例を経験できると伺っております。また、施設も新しくなり、画像機器もCTはじめ充実しており、画像診断医として研鑽をつみ、早く臨床の場にお役にたてるよう頑張っていきたいと思ひます。慣れるまでご迷惑かけることが多々あると思ひますが、よろしくお願ひいたします。



耳鼻咽喉科

く ま が い ゆずる
熊 谷 譲

平成24年7月1日より、耳鼻咽喉科の非常勤として、毎週火曜日午前と木曜日に勤務をさせていただくこととなりました熊谷譲と申します。

平成11年日本大学医学部を卒業後、東京の国立国際

医療研究センター耳鼻咽喉科に入局し、同院にて厚生労働技官として平成21年12月まで勤務しておりました。同院では主に音声、嚥下を中心に一般耳鼻咽喉科診療を行っておりました。現在熊本市南坪井にあります実家の医院で副院長を勤めております。今回耳鼻咽喉科医長の上村尚樹先生とご縁があり、耳鼻咽喉科外来、検査のお手伝いをさせていただくこととなりました。気軽に御相談ください。

御迷惑をおかけする点もあるかと思ひますが、よろしくお願ひ申し上げます。

研修医レポート

臨床研修医

1年次 井 けんいちろう
建一朗



みなさんこんにちは。研修医一年目の井建一朗と申します。今年3月に大分大学を卒業し、4月より熊本医療センターで初期研修をさせていただいております。研修医生活が2ヶ月経ち、少しずつ仕事を覚えてきましたが、まだまだ皆さんにはご迷惑をかける日々が続いています。

現在私は血液内科で研修をさせていただいております。血液内科では、医師としてはじめての2ヶ月間とのこともあり、看護師さんをはじめとするスタッフとの連携の大切さ、患者さんとの接し方など大切なことをたくさん学ばせていただいています。抗癌剤1つをとっても複雑な作用機序があり、また副作用も様々で

す。それをうまく組み合わせて、その患者さんに適した量で一人の患者さんを救う治療に興味が出てきました。また朝の採血をはじめ抗がん剤のルート確保、骨髄穿刺や移植ドナーさんの骨髄採取など様々な手技も経験させていただいています。

また私たち研修医1年目も月に数回の救急外来に入っています。熊本医療センターは救急医療にも力を入れており、受け入れる患者数も多いです。ここでは患者さんが短時間にどういった理由で苦しんでいるか、どのくらいの緊急性があるかなど勉強になることがたくさんあり、一晩で経験値が一気に上がります。まだ鑑別ひとつ追いつかない夜が続いていますが、1歩ずつ確実に経験を積み重ねていきたいと思っています。

熊本医療センターでの研修は忙しく1日があっという間です。今後も時にはつらいと思うこともあるかもしれませんが、これが今後の医師人生を支える基礎になると信じて確実に前に進んで行こうと思います。まだ右往左往する日々が続きますが、一生懸命がんばりますので今後ご指導の程よろしくお願ひします。

臨床研修医

1年次 伊とうやま るみ
東山 瑠美



みなさん、はじめまして。研修医1年目の伊東山瑠美と申します。この春大分大学を卒業して、この熊本医療センターでお世話になっております。右も左も分からなかった4月から早2ヶ月が経とうとしておりますが、未だに毎日分からないことの連続です。日々、昨日の自分より少しでも進歩できているように、皆さんにご迷惑をおかけしながら勉強させていただいています。

私は研修医として最初の2ヶ月を麻酔科で勉強させて頂いております。上級医の先生の指導のもと、患者さんの術前診察から、手術当日の麻酔の導入から覚醒、そして術後の診察まで、多くのことを学びとる毎日です。特に手術当日は、ルート確保や気管挿管、脊髄くも膜下麻酔など手技も多く、この2ヶ月でかなりの数の手技を経験させて頂きました。それでも日々、まだまだな自分を発見するばかりです。

この先6カ月は消化器内科、神経内科、腎臓内科と内科を6カ月間ローテートしますが、この2ヶ月での経験を生かして、実り多い研修期間にしたいと思っています。これからもご指導、どうぞよろしくお願ひいたします。

研修のご案内

第162回 月曜会 (無料)

(内科症例検討会)

[日本医師会生涯教育講座1.5単位認定]

日時▶平成24年7月9日(月)19:00~20:30

場所▶国立病院機構熊本医療センター地域医療研修センター

1. 胸部レントゲン読影

2. 持ち込み症例の検討

3. 症例検討症例検討「四肢のしびれで発症した悪性リンパ腫」

国立病院機構熊本医療センター血液内科部長

日高 道弘

4. ミニレクチャー「急速進行性糸球体腎炎について」

国立病院機構熊本医療センター腎臓内科

坂梨 綾

日頃、疑問の症例、興味のある症例、X線、心電図、その他がございましたら、ご持参いただきますようお願い致します。

[問合せ先] 国立病院機構熊本医療センター研修部長 清川 哲志 TEL:096-353-6501(代表) FAX:096-325-2519

第107回 総合症例検討会 (CPC)

[日本医師会生涯教育講座1.5単位認定]

日時▶平成24年7月18日(水)19:00~20:30

場所▶国立病院機構熊本医療センター地域医療研修センター

テーマ:『進行する呼吸困難』

(70歳代 女性)

臨床担当) 国立病院機構熊本医療センター呼吸器内科

山根 宏美

病理担当) 国立病院機構熊本医療センター臨床研究部病理研究室長

村山 寿彦

「糖尿病と変形性膝関節症があり近医に通院していた。右大腿の疼痛が出現したため、近医に受診し入院予定であったが呼吸促進有り当院へ救急搬送された。」

* 臨床経過の詳細な検討と鑑別診断を行います。最後に病理よりマクロ、ミクロの所見と剖検診断が解説されます。通常のレクチャー(解説)の前に、馴染みの少ない疾患、病態は、その分野に関するミニレクチャーを予定しております。基本的知識を学んだ後で活発なディスカッションをお願い致します。どなたもお気軽にご参加下さい。

[問合せ先] 国立病院機構熊本医療センター 地域医療研修センター事務局 TEL 096-353-6501(代表) 内線2630 096-353-3515(直通)

第130回 三木会 (無料)

(糖尿病、脂質異常症、高血圧を語る会)

[日本医師会生涯教育講座1.5単位認定]

[日本糖尿病療養指導士認定更新のための研修単位<2群>0.5単位認定]

日時▶平成24年7月19日(木)19:00~20:45

場所▶国立病院機構熊本医療センター研修室2

1. 「ペットボトル症候群によって誘発された糖尿病ケトアシドーシスの一例」

国立病院機構熊本医療センター糖尿病・内分泌内科

今村隆二、信岡謙太郎、橋本章子、高橋毅、豊永哲至、東輝一朗

2. 「経口血糖降下薬を服用していないにもかかわらず重症の低血糖を引き起こした食道癌術後の一例」

国立病院機構熊本医療センター糖尿病・内分泌内科

信岡謙太郎、橋本章子、高橋毅、豊永哲至、東輝一朗

なお、興味のある症例、疑問・質問のある症例がございましたら、お持ちいただきますようお願い致します。

[問合せ先] 国立病院機構熊本医療センター内科部長 東 輝一朗 TEL 096-353-6501(代表) 内線5705

第23回 症状・疾患別シリーズ (会員制)

[日本医師会生涯教育講座2.5単位認定]

日時▶平成24年7月21日(土)15:00~17:30

場所▶国立病院機構熊本医療センター地域医療研修センター

座長:あけぼのクリニック理事長

松下 和孝 先生

演題:「CKD up to date」

1. 腎障害に関与する高血圧以外の要素について

国立病院機構熊本医療センター腎臓内科

梶原 健吾

2. CKDの「その後」

国立病院機構熊本医療センター腎臓内科部長

富田 正郎

3. CKDにおける高血圧の治療戦略

熊本大学大学院生命科学研究部腎臓内科学助教

實吉 拓 先生

この講座は有料で、年間10回を1シリーズ(年会費10,000円)として会費制で運営しています。但し、1回だけの参加を希望される場合は1回会費2,000円で参加いただけます。

[問合せ先] 国立病院機構熊本医療センター 地域医療研修センター事務局

TEL 096-353-6501(代表) 内線2630 096-353-3515(直通) FAX 096-352-5025(直通)

第72回 特別講演 (無料)

[日本医師会生涯教育講座1.5単位認定]

日時▶平成24年7月25日(水)19:00~20:30

場所▶国立病院機構熊本医療センター地域医療研修センター

座長:国立病院機構熊本医療センター副院長 野村 一俊

「CT・MRIの進歩と普及ー脳神経外科医の立場からー」

熊本大学大学院生命科学研究部脳神経外科学教授

倉津 純一 先生

[問合せ先] 国立病院機構熊本医療センター 地域医療研修センター TEL 096-353-6501(代表) 096-353-3515(直通)

2012年

研修日程表

7月

国立病院機構熊本医療センター 地域医療研修センター

7月	研修センターホール	研修室	その他
1日(日)	13:00~16:50 第26回 臨床薬理セミナー 「精神科疾患と薬物治療—精神医療の動向と患者に応じた薬の使用法—」 [日本医師会生涯教育講座3.0単位認定] 1. 精神科疾患と薬物治療 2. アルコール依存と薬物療法 3. 妊婦と薬物—特に精神科使用薬剤—	[日本薬剤師研修センター認定研修2.0単位認定] 国立病院機構菊池病院臨床研究部長 木村 武美 国立病院機構肥前精神医療センター院長 杉 岳文 虎の門病院薬剤部長 林 昌洋	
2日(月)			7:45~ 8:15 外科術後症例検討会 6東 8:00~ 8:30 MGH症例検討会 C1 16:00~18:00 泌尿器科病棟カンファレンス 5西 17:00~18:00 小児科カンファレンス 6西
3日(火)			7:45~ 8:15 外科術後症例検討会 6東 15:00~16:30 血液病懇話会 C2 15:00~19:00 外科術前症例検討会 C1
4日(水)			7:45~ 8:15 外科術後症例検討会 6東 17:00~18:30 血液形態カンファレンス C2 17:30~19:00 消化器疾患カンファレンス C1
5日(木)	7:30~8:15 二の丸モーニングセミナー 「意識障害の考え方」 国立病院機構熊本医療センター神経内科医長 田北 智裕		7:45~ 8:15 外科術後症例検討会 6東 7:50~ 9:00 整形外科症例検討会 C1 17:00~19:00 循環器カンファレンス 6北 17:30~19:00 超音波カンファレンス 消 18:00~19:00 糖尿病・内分泌内科カンファレンス C2
6日(金)			7:45~ 8:15 外科術後症例検討会 6東 8:00~ 8:30 麻酔科症例検討会 手 8:00~ 9:00 消化器病研究会 C1
9日(月)	19:00~20:30 第162回 月曜会(内科症例検討会) [日本医師会生涯教育講座1.5単位認定]		7:45~ 8:15 外科術後症例検討会 6東 8:00~ 8:30 MGH症例検討会 C1 16:00~18:00 泌尿器科病棟カンファレンス 5西 17:00~18:00 小児科カンファレンス 6西
10日(火)			7:45~ 8:15 外科術後症例検討会 6東 15:00~16:30 血液病懇話会 C2 15:00~17:30 外科術前症例検討会 C1 19:00~21:00 泌尿器科・放射線科合同ウログラム C1
11日(水)	18:00~19:30 第75回 クリティカルパス研究会(公開)		7:45~ 8:15 外科術後症例検討会 6東 17:00~18:30 血液形態カンファレンス C2 17:30~19:00 消化器疾患カンファレンス C1
12日(木)	7:30~8:15 二の丸モーニングセミナー 「輸液の実際」 国立病院機構熊本医療センター腎臓内科医長 富田 正郎	18:30~20:00 熊本県臨床衛生検査技師会 一般検査研究班月例会(研2)	7:45~ 8:15 外科術後症例検討会 6東 7:50~ 9:00 整形外科症例検討会 C1 17:00~19:00 循環器カンファレンス 6北 17:30~19:00 超音波カンファレンス 消 18:00~19:00 糖尿病・内分泌内科カンファレンス C2
13日(金)			7:45~ 8:15 外科術後症例検討会 6東 8:00~ 8:30 麻酔科症例検討会 手 8:00~ 9:00 消化器病研究会 C1
14日(土)	9:00~12:00 楽しく学ぶ基礎看護研修(場所:看護学校)		
17日(火)	19:30~20:30 第22回 熊本棋会・熊下リハビリテーションセミナー 「呼吸リハ」 熊本保健科学大学保健科学部理学療法学専攻准教授 久保 高明		7:45~ 8:15 外科術後症例検討会 6東 15:00~16:30 血液病懇話会 C2 15:00~19:00 外科術前症例検討会 C1
18日(水)	19:00~20:30 第107回 総合症例検討会(CPC) [日本医師会生涯教育講座1.5単位認定] 「進行する呼吸困難」		7:45~ 8:15 外科術後症例検討会 6東 17:00~18:30 血液形態カンファレンス C2 17:30~19:00 消化器疾患カンファレンス C1
19日(木)	7:30~8:15 二の丸モーニングセミナー 「輸血の実際」 国立病院機構熊本医療センター血液内科医長 鶴田 敏久	19:00~20:45 第130回 三木会(研2) (糖尿病、脂質異常症、高血圧を語る会) [日本医師会生涯教育講座1.5単位認定] [日本糖尿病看護指導士認定更新のための研修単位数<2割>0.5単位認定]	7:45~ 8:15 外科術後症例検討会 6東 7:50~ 9:00 整形外科症例検討会 C1 17:00~19:00 循環器カンファレンス 6北 17:30~19:00 超音波カンファレンス 消 18:00~19:00 糖尿病・内分泌内科カンファレンス C2
20日(金)			7:45~ 8:15 外科術後症例検討会 6東 8:00~ 8:30 麻酔科症例検討会 手 8:00~ 9:00 消化器病研究会 C1
21日(土)	15:00~17:30 第23回 症状・疾患別シリーズ [日本医師会生涯教育講座2.5単位認定] 座長 あげほのクリニック理事長 松下 和孝 「CKD up to date」 1. 腎障害に関する高血圧以外の要素について 国立病院機構熊本医療センター腎臓内科 梶原 健吾 2. CKDの「その後」 国立病院機構熊本医療センター腎臓内科医長 富田 正郎 3. CKDにおける高血圧の治療戦略 熊本大学大学院生命科学研究部腎臓内科学助教 貴吉 拓		
23日(月)			7:45~ 8:15 外科術後症例検討会 6東 8:00~ 8:30 MGH症例検討会 C1 16:00~18:00 泌尿器科病棟カンファレンス 5西 17:00~18:00 小児科カンファレンス 6西
24日(火)	18:30~20:30 血液研究班月例会	19:00~21:00 小児科火曜会(研1)	7:45~ 8:15 外科術後症例検討会 6東 15:00~16:30 血液病懇話会 C2 15:00~19:00 外科術前症例検討会 C1
25日(水)	19:00~20:30 第72回 特別講演 [日本医師会生涯教育講座1.5単位認定] 座長 国立病院機構熊本医療センター副院長 野村 一俊 「CT・MRIの進歩と普及—脳神経外科医の立場から—」 熊本大学大学院生命科学研究部脳神経外科学教授 倉津 純一		7:45~ 8:15 外科術後症例検討会 6東 17:00~18:30 血液形態カンファレンス C2 17:30~19:00 消化器疾患カンファレンス C1
26日(木)	7:30~8:15 二の丸モーニングセミナー	19:00~21:00 熊本脳神経疾患懇話会(研2)	7:45~ 8:15 外科術後症例検討会 6東 7:50~ 9:00 整形外科症例検討会 C1 17:00~19:00 循環器カンファレンス 6北 17:30~19:00 超音波カンファレンス 消 18:00~19:00 糖尿病・内分泌内科カンファレンス C2
27日(金)			7:45~ 8:15 外科術後症例検討会 6東 8:00~ 8:30 麻酔科症例検討会 手 8:00~ 9:00 消化器病研究会 C1
28日(土)	9:00~18:10 第27回 ナースのための人工呼吸セミナー 1. 呼吸生理と血液ガス 2. 呼吸管理と看護のポイント 3. 慢性呼吸不全に対する非侵襲的人工呼吸と管理 4. 各種病態における呼吸不全の治療	琉球大学医学部救急医学教授 久木田一朗 国立病院機構熊本医療センター麻酔科医長・集中治療室長 瀬 賢一郎 国立病院機構熊本医療センター呼吸器内科医長 柏原 光介 山口大学大学院医学系研究科救急・生体複製制御医学分野教授 鶴田 良介	
30日(月)			7:45~ 8:15 外科術後症例検討会 6東 8:00~ 8:30 MGH症例検討会 C1 16:00~18:00 泌尿器科病棟カンファレンス 5西 17:00~18:00 小児科カンファレンス 6西
31日(火)			7:45~ 8:15 外科術後症例検討会 6東 15:00~16:30 血液病懇話会 C2 15:00~19:00 外科術前症例検討会 C1

研1~3 2階研修室1~3 C1・2 3階カンファレンスルーム1・2 5西 5階西病棟 6東 6階東病棟 6西 6階西病棟 6北 6階北病棟 消 消化器病センター読影室 手術室

※二の丸モーニングセミナーにつきまして、詳細はホームページ (<http://www.nho-kumamoto.jp/index.html>) をご参照ください。

問い合わせ先 〒860-0008 熊本市中央区二の丸1番5号 国立病院機構熊本医療センター2階 地域医療研修センター TEL 096-353-6501(代) 内線2630 096-353-3515(直通)